

(1)児童の体力の現状

- 握力は、男子は全学年、女子は5年生以外の全ての学年で県及び市の平均を上回っている。
- 4年男子と6年女子は8種目中6種目で市平均を上回っている。
- 女子は握力、シャトルラン、50m走で4学年以上が市平均を上回っている。
- 上体起こしは全学年で男女とも県及び市の平均を下回っており、筋力や筋持久力に課題がある。
- ボール投げは全学年で男女とも県平均を下回っており、投力に課題がある。

(2)30年度の具体目標の達成状況と課題

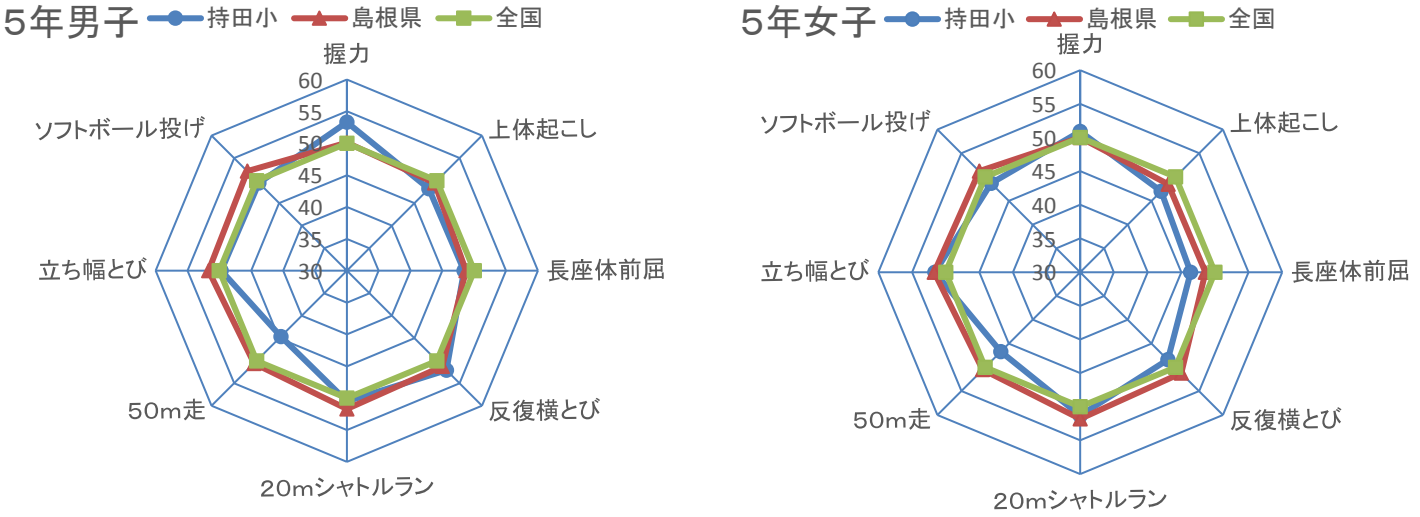
- 体を動かすことの気持ちよさや楽しさを感じ、運動が好きな児童が増えることをねらい、新たな取組として、秋の天気の良い時期に低・中・高学年別に、校庭で鬼ごっこ大会を開催した。12月に行った校内アンケートでは、「休憩時間は、校庭や体育館で遊びましたか。」という項目で、肯定的回答をした児童が今年度は84%であった。平成27年度は79%、平成28年度は82%、平成29年度は84%であったことから、数年前と比べ体を動かす児童は増えてきているといえる。
- 外部講師を招いてのメディア学習や食についての学習を通し、体の成長について学んだ。体力は運動だけをすれば向上するものではなく、良質な睡眠やバランスのよい食事等も大切であることを知ることができ、普段の生活を振り返ることができた。
- 投力の向上を目指し、体育の時間にドッジボールやボール投げなど、学年に応じた活動を取り入れたが、昨年度と比べ市平均に届かなかった学年が増えた。さらなる指導方法の工夫をする必要がある。
- ここ数年、休憩時間に体を動かして遊ぶ児童の割合は増えてきているが、その一方で体を動かすことがあまり好きではない児童も一定の割合でおり、体力の二極化の傾向がある。

(3)31年度の取組【対策】

- ①学校における取組
 - ・体幹を鍛える体操や縄跳びなど、全校で取り組んできた活動を来年度も継続する。
 - ・体力テストの結果及び課題を年度初めに全教職員に知らせ、各学年の児童の実態に応じた活動や学習形態を取り入れながら、全児童の体力向上を目指す。
- ②地域や家庭との連携による取組
 - ・児童の体力の実態や電子メディアの使い過ぎによる悪影響等について保護者に知らせ、運動や睡眠の大切さを家庭に伝えていく。
 - ・地域の活動と連携して、運動に親しむ取組を推進していく。
- ③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組
 - ・食の学習ノートの活用や、外部講師を招いての学習等を通して、食育の大切さを伝えていく。
 - ・養護教諭と連携し、保健の授業や身体測定の時間を活用し、生活習慣を確立することの大切さを伝えていく。

調査実施者数(人) 1年(男子21・女子22) 2年(男子22・女子17) 3年(男子16・女子21)
4年(男子22・女子13) 5年(男子32・女子24) 6年(男子25・女子25)

(4)5年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 5年生意識調査の結果

